

○ 土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 15 年 3 月 28 日 14 農振第 2694 号農村振興局整備部長通知）一部改正新旧対照表

（下線部は改正部分）

改 正 後	現 行																																																																																														
1. 土 工 ① バックホウ掘削（超ロングアーム仕様） 1. ・ 2. [略] 3. 機種の選定 各作業に使用する機種・規格は、次表とする。 表 3. 1 機種の選定 <table><tr><th>作業の種類</th><th>機 種</th><th>規 格</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削</td><td>バックホウ (超ロングアーム仕様)</td><td>排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td></td></tr><tr><td>運 搬</td><td>ダンプトラック</td><td>10t 積級</td><td>必要に応じて計上する</td></tr></table> 4. 施工歩掛 4－1 掘削積込作業 バックホウ（超ロングアーム仕様）掘削積込作業の日当り施工歩掛は、次表とする。 表 4. 1 日施工量 <table><tr><th>作業の種類</th><th>機 械 名</th><th>規 格</th><th>日施工量（m³）</th></tr><tr><td>軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削</td><td>バックホウ (超ロングアーム仕様)</td><td>排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>116</td></tr></table> 4－2 [略] 5. 単価表 (1) バックホウ（超ロングアーム仕様）掘削積込 100m³当り単価表 <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数 量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム仕様）運転</td><td>排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>日</td><td>100／D</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (注) [略] (2) [略] (3) 機械運転単価表 <table><tr><th>機 械 名</th><th>規 格</th><th>適用単価表</th><th>指 定 事 項</th></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム仕様）</td><td>排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>機－1 8</td><td>運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→85 機械損料数量→1. 48</td></tr><tr><td>ダ ン プ ト ラ ッ ク</td><td>10t 積級</td><td>機－2 2</td><td>運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25</td></tr></table>	作業の種類	機 種	規 格	摘 要	軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)		運 搬	ダンプトラック	10t 積級	必要に応じて計上する	作業の種類	機 械 名	規 格	日施工量（m ³ ）	軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	116	名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	バックホウ（超ロングアーム仕様）運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	日	100／D		計					機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→85 機械損料数量→1. 48	ダ ン プ ト ラ ッ ク	10t 積級	機－2 2	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25	1. 土 工 ① バックホウ掘削（超ロングアーム仕様） 1. ・ 2. [略] 3. 機種の選定 各作業に使用する機種・規格は、次表とする。 表 3. 1 機種の選定 <table><tr><th>作業の種類</th><th>機 種</th><th>規 格</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削</td><td>バックホウ (超ロングアーム仕様)</td><td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td></td></tr><tr><td>運 搬</td><td>ダンプトラック</td><td>10t 積級</td><td>必要に応じて計上する</td></tr></table> 4. 施工歩掛 4－1 掘削積込作業 バックホウ（超ロングアーム仕様）掘削積込作業の日当り施工歩掛は、次表とする。 表 4. 1 日施工量 <table><tr><th>作業の種類</th><th>機 械 名</th><th>規 格</th><th>日施工量（m³）</th></tr><tr><td>軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削</td><td>バックホウ (超ロングアーム仕様)</td><td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>116</td></tr></table> 4－2 [略] 5. 単価表 (1) バックホウ（超ロングアーム仕様）掘削積込 100m³当り単価表 <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数 量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム仕様）運転</td><td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>日</td><td>100／D</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (注) [略] (2) [略] (3) 機械運転単価表 <table><tr><th>機 械 名</th><th>規 格</th><th>適用単価表</th><th>指 定 事 項</th></tr><tr><td>バックホウ（超ロングアーム仕様）</td><td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td><td>機－1 8</td><td>運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→86 機械損料数量→1. 48</td></tr><tr><td>ダ ン プ ト ラ ッ ク</td><td>10t 積級</td><td>機－2 2</td><td>運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25</td></tr></table>	作業の種類	機 種	規 格	摘 要	軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)		運 搬	ダンプトラック	10t 積級	必要に応じて計上する	作業の種類	機 械 名	規 格	日施工量（m ³ ）	軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	116	名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	バックホウ（超ロングアーム仕様）運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	日	100／D		計					機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→86 機械損料数量→1. 48	ダ ン プ ト ラ ッ ク	10t 積級	機－2 2	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25
作業の種類	機 種	規 格	摘 要																																																																																												
軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)																																																																																													
運 搬	ダンプトラック	10t 積級	必要に応じて計上する																																																																																												
作業の種類	機 械 名	規 格	日施工量（m ³ ）																																																																																												
軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	116																																																																																												
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要																																																																																											
バックホウ（超ロングアーム仕様）運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	日	100／D																																																																																												
計																																																																																															
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																																																																												
バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→85 機械損料数量→1. 48																																																																																												
ダ ン プ ト ラ ッ ク	10t 積級	機－2 2	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25																																																																																												
作業の種類	機 種	規 格	摘 要																																																																																												
軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)																																																																																													
運 搬	ダンプトラック	10t 積級	必要に応じて計上する																																																																																												
作業の種類	機 械 名	規 格	日施工量（m ³ ）																																																																																												
軟弱土の掘削積込 仮置土の掘削	バックホウ (超ロングアーム仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	116																																																																																												
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要																																																																																											
バックホウ（超ロングアーム仕様）運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	日	100／D																																																																																												
計																																																																																															
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																																																																												
バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→86 機械損料数量→1. 48																																																																																												
ダ ン プ ト ラ ッ ク	10t 積級	機－2 2	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→58 機械損料数量→1. 25																																																																																												

2. 共 通 工

①～④ [略]

⑤ 骨材再生工（自走式）

1. ～3. [略]

4. 骨材再生工

[略]

4－1 使用機械

[略]

表 4. 1 使用機械

作業種別	機 種	規 格	単位	数量
	大型ブレーカ ＋バックホウ	油圧式 600～800kg 級 排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値） クローラ型 山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	台	1
	バックホウ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値） クローラ型 山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	〃	1
骨材再生	自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	〃	1

（注） 1. ～3. [略]

4－2～4－4 [略]

5. 単価表

（1） [略]

（2）骨材再生工 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世話役		人	1×100／D	表 4. 2
特殊作業員		〃	1×100／D	〃
大型ブレーカ ＋バックホウ運転	油圧式 600～800kg 級 排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値） クローラ型山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	日	100／D	必要に応じて計上 する
バックホウ運転	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値） クローラ型山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	〃	100／D	
自走式破砕機運転	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	〃	100／D	
諸雑費		式	1	表 4. 4
計				

（注） [略]

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大型ブレーカ ＋バックホウ	[バックホウ] 排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値） クローラ型山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	機－2 0	→バックホウ 運転労務数量→1.00 →72 機械損料数量→1.16
	[大型ブレーカ] （ベースマシン含まず） 油圧式 600～800kg 級		機械損料 2 →大型ブレーカ 機械損料数量→1.16
バックホウ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）	機－1 8	運転労務数量→1.00

2. 共 通 工

①～④ [略]

⑤ 骨材再生工（自走式）

1. ～3. [略]

4. 骨材再生工

[略]

4－1 使用機械

[略]

表 4. 1 使用機械

作業種別	機 種	規 格	単位	数量
	大型ブレーカ ＋バックホウ	油圧式 600～800kg 級 排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） クローラ型 山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	台	1
	バックホウ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） クローラ型 山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	〃	1
骨材再生	自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	〃	1

（注） 1. ～3. [略]

4－2～4－4 [略]

5. 単価表

（1） [略]

（2）骨材再生工 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世話役		人	1×100／D	表 4. 2
特殊作業員		〃	1×100／D	〃
大型ブレーカ ＋バックホウ運転	油圧式 600～800kg 級 排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） クローラ型山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	日	100／D	必要に応じて計上す る
バックホウ運転	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） クローラ型山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	〃	100／D	
自走式破砕機運転	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	〃	100／D	
諸雑費		式	1	表 4. 4
計				

（注） [略]

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大型ブレーカ ＋バックホウ	[バックホウ] 排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） クローラ型山積 0.6m ³ （平積 0.5m ³ ）	機－2 0	→バックホウ 運転労務数量→1.00 →72 機械損料数量→1.16
	[大型ブレーカ] （ベースマシン含まず） 油圧式 600～800kg 級		機械損料 2 →大型ブレーカ 機械損料数量→1.16
バックホウ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値）	機－1 8	運転労務数量→1.00

	クローラ型山積 1.0m ³ (平積 0.7m ³)		→104 機械損料数量→1.13
自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	機－2 4	→177 機械損料数量→1.71

(注) [略]

4. 基礎工

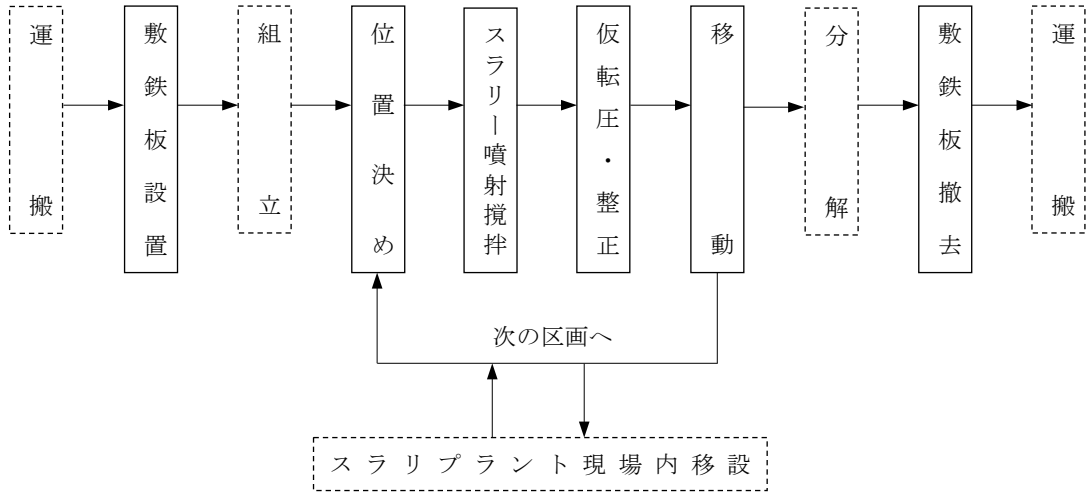
① [略]

② 中層混合処理工

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

[略]

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量			
			改良深(L) 2m<L≤5m	改良深(L) 5m<L≤8m	改良深(L) 8m<L≤10m	改良深(L) 10m<L≤13m
中層混合処理機 トレンチャ式	[ヘースマシン] 20t (山積 0.8m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)5m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	台	1	—	—	—
	[ヘースマシン] 30t (山積 1.4m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)8m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	〃	—	1	—	—
	[ヘースマシン] 40 t (山積 1.9m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)10m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	〃	—	—	1	—

	クローラ型山積 1.0m ³ (平積 0.7m ³)		→104 機械損料数量→1.13
自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	機－2 4	→177 機械損料数量→1.71

(注) [略]

4. 基礎工

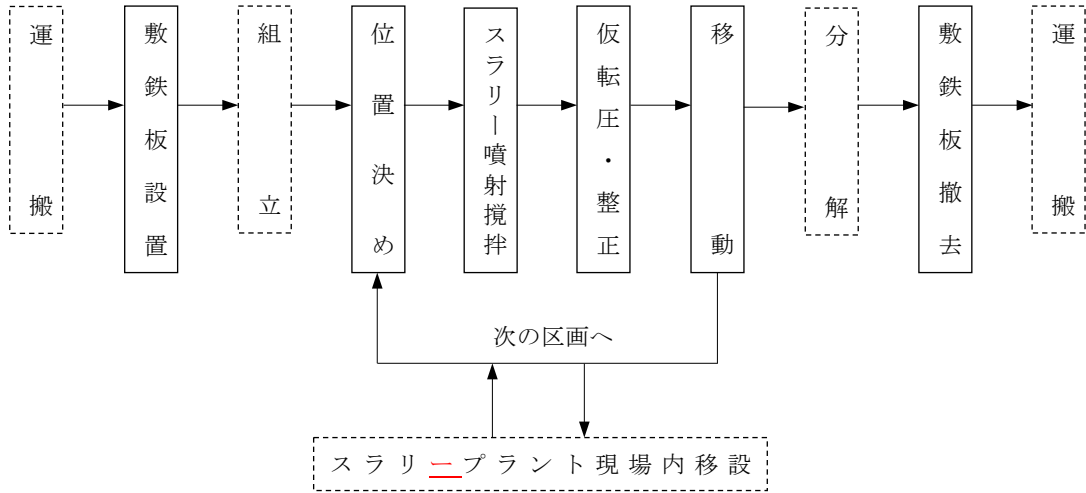
① [略]

② 中層混合処理工

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

[略]

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量			
			改良深(L) 2m<L≤5m	改良深(L) 5m<L≤8m	改良深(L) 8m<L≤10m	改良深(L) 10m<L≤13m
中層混合処理機 トレンチャ式	[ヘースマシン] 20t (山積 0.8m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)5m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	台	1	—	—	—
	[ヘースマシン] 30t (山積 1.4m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)8m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	〃	—	1	—	—
	[ヘースマシン] 40 t (山積 1.9m ³) 級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)10m [施工管理装置] 1ヒースブーム用	〃	—	—	1	—

	[ヘースマシン] 40 t（山積 1.9m ³ ）級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)13m [施工管理装置] 2ヒースフーム用	〃	—	—	—	1
深層混合処理機 (スラリー式)	スラリプラント（全自動） 能力 20m ³ /h	〃	1			

4. 編成人員
[略]

表 4. 1 編成人員 (人)

[削る。]	世 話 役	特殊作業員	普通作業員
[削る。]	1	1	2

(注) [略]

5. 施工歩掛

5－1・5－2 [略]

5－3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板（中層混合処理機用・スラリプラント用））の賃料及び設置・撤去・移設に要する費用（バックホウ運転費用）、攪拌混合装置の損耗材料費（チェーン、攪拌翼、切削刃、ガイドローラ、スプロケット、アイドラーの各部品費）、空気圧縮機の賃料及び運転経費、電力に関する経費等の費用及び改良後の整地に要する費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

改良深度 L	諸雑費率
2 m < L ≤ 5 m	<u>29</u>
5 m < L ≤ 8 m	<u>26</u>
8 m < L ≤ 10m	<u>27</u>
10m < L ≤ 13m	<u>26</u>

5－4 その他

(1) ～ (3) [略]

(4) スラリプラントを中心に半径約 200mを超える場合、揚程が 5 mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が 2 箇所以上あり、スラリプラントを移設しなければならない場合は、「標準歩掛 4. 基礎工⑨軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）5－4 スラリプラント現場内移設歩掛」を適用する。

(5) ・ (6) [略]

(7) プラント設備の防寒設備が必要な場合は、別途計上する。

6. 単価表

(1) 中層混合処理工 100m³当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	100／D×1	表 4. 1 表 5. 1
特 殊 作 業 員		〃	100／D×1	〃
普 通 作 業 員		〃	100／D×2	〃
中層混合処理機運転		日	100／D	表 3. 1 表 5. 1
スラリプラント運転		日	100／D	表 3. 1 表 5. 1
諸 雑 費		式	1	表 5. 4
改 良 材		t	V×100	式 5. 1
特 許 料 金		式	1	必要に応じて計上する
計				

(注) [略]

	[ヘースマシン] 40 t（山積 1.9m ³ ）級バックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)13m [施工管理装置] 2ヒースフーム用	〃	—	—	—	1
深層混合処理機 (スラリー式)	スラリ ー プラント（全自動） 能力 20m ³ /h	〃	1			

4. 編成人員
[略]

表 4. 1 編成人員 (人)

<u>工 法</u>	世 話 役	特殊作業員	普通作業員
<u>中層混合処理工</u>	1	1	2

(注) [略]

5. 施工歩掛

5－1・5－2 [略]

5－3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板（中層混合処理機用・スラリ~~ー~~プラント用））の賃料及び設置・撤去・移設に要する費用（バックホウ運転費用）、攪拌混合装置の損耗材料費（チェーン、攪拌翼、切削刃、ガイドローラ、スプロケット、アイドラーの各部品費）、空気圧縮機の賃料及び運転経費、電力に関する経費等の費用及び改良後の整地に要する費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

改良深度 L (<u>m</u>)	諸雑費率
2 m < L ≤ 5 m	<u>32</u>
5 m < L ≤ 8 m	<u>23</u>
8 m < L ≤ 10m	<u>24</u>
10m < L ≤ 13m	<u>24</u>

5－4 その他

(1) ～ (3) [略]

(4) スラリ~~ー~~プラントを中心に半径約 200mを超える場合、揚程が 5 mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が 2 箇所以上あり、スラリ~~ー~~プラントを移設しなければならない場合は、「標準歩掛 4. 基礎工⑨軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）1」の「5－4 スラリ~~ー~~プラント現場内移設歩掛」を適用する。

(5) ・ (6) [略]

[新設]

6. 単価表

(1) 中層混合処理工 100m³当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	100／D×1	表 4. 1 表 5. 1
特 殊 作 業 員		〃	100／D×1	〃
普 通 作 業 員		〃	100／D×2	〃
中層混合処理機運転		日	100／D	表 3. 1 表 5. 1
スラリ ー プラント運転		日	100／D	表 3. 1 表 5. 1
諸 雑 費		式	1	表 5. 4
改 良 材		t	V×100	式 5. 1
特 許 料 金		式	1	必要に応じて計上する
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価 表	指 定 事 項
中層混合処理機 トレンチャ式	ヘースマシン 20t (山積 0.8m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 5 m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →113 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 30t (山積 1.4m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 8 m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →183 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準)10m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →233 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m³) 級バックホウ (2 ヒースフーム) 攪拌混合装置 改良深度(標準)13m 施工管理装置 2 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →233 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
深層混合処理 機 (スラリー式)	スラリプラント (全自動) 能力 20m³/h	機－ 2 5	機械損料数量 →1.68

1 3 . 仮 設 工

① [略]

② バイブロハンマエ (継施工)

1 . ～ 4 . [略]

5 . 日 当 り 施 工 枚 数 (継 施 工 を 伴 う 打 込 み)

5－1 [略]

5－2 諸 雑 費
諸雑費は、共下がり防止及び導材 (ガイド) 用の溶接棒及び電気溶接機損料、導材 (ガイド) 賃料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費 (配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料)、陸上部での付属機材等の現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 [略]

6 . [略]

③～⑦ [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価 表	指 定 事 項
中層混合処理機 トレンチャ式	ヘースマシン 20t (山積 0.8m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 5 m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →113 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 30t (山積 1.4m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 8 m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →183 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m³) 級バックホウ 攪拌混合装置 改良深度(標準)10m 施工管理装置 1 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →233 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m³) 級バックホウ (2 ヒースフーム) 攪拌混合装置 改良深度(標準)13m 施工管理装置 2 ヒースフーム用	機－ 2 0	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →233 機械損料数量 1 (ヘースマシン) →1.68 機械損料数量 2 (攪拌混合装置) →1.68 機械損料数量 3 (施工管理装置) →1.68
深層混合処理 機 (スラリー式)	スラリ <u>二</u> プラント (全自動) 能力 20m³/h	機－ 2 5	機械損料数量 →1.68

1 3 . 仮 設 工

① [略]

② バイブロハンマエ (継施工)

1 . ～ 4 . [略]

5 . 日 当 り 施 工 枚 数 (継 施 工 を 伴 う 打 込 み)

5－1 [略]

5－2 諸 雑 費
諸雑費は、溶接棒、導材 (ガイド) 賃料、敷鉄板賃料、電気溶接機損料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費 (配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、水中ポンプ損料、水槽及び配管損料)、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 [略]

6 . [略]

③～⑦ [略]

